

13-59 インフルエンザ予防接種 需要の分析

大日康史（大阪大学社会経済研究所）
井伊雅子（横浜国立大学経済学部）

目的：人々の選択もしくは需要という観点から、予防接種を扱った研究は国際的にもほとんどない。本研究では、インフルエンザ予防接種の需要に関して分析した。

研究方法：独自に実施したアンケートを用いて、予防接種の実証分析を行う。実際の行動の分析と conjoint analysis と呼ばれる分析手法を用いる。

結果：まず実際の行動の分析では、'99/00 シーズン、インフルエンザ罹患経験、予防接種経験が接種に影響を与えていることが明らかにされる。また、Conjoint Analysis における希望と実際の行動のバイアスが5倍で一定であるとする仮定の下で、現行の6000円が仮に無料になった場合には8.7%ポイントの接種率向上、休日・夜間あるいは職場・学校での接種が可能になった場合には2.1%、3.2%ポイントの接種拡大、大流行情報が流れた場合には6.6%ポイントの増加になる。また、所得が有意に接種率を下げることから、機会費用が重要であることが示唆される。また、予防接種経験による効果は大きいことが確認される。

考察：本研究は今後の政策にとって重要な示唆が含まれているが、その頑健性については今後ともさらなる吟味が必要である。

特に、Conjoint Analysis という仮想的質問法と実際の行動とのギャップを橋渡しする分析が急務である。また、老人福祉施設や病院に入所・入院している方は対象とする調査がより重要であろう。

fax:06-6878-2766

e-mail:ohkusa@isev.osaka-u.ac.jp

13-60

特殊浴場で働く日本人女性の性感染症

宮崎元伸(1)、高木繁(2)、加藤真澄(3)、畝博(1)
福岡大・医・衛生(1)、ダイヤビルクリニック(2)、
福岡大・医・社会医学系総研(3)

目的：国内某所の特殊浴場で働く日本人女性における性感染症の実態を調査検討した。

対象と方法：平成11年7月から12年2月までの間に検査を受けた110人(年齢は20歳から36歳)を対象にした。調査した感染症は、ヒト免疫不全ウイルス感染症1型および2型、B型およびC型肝炎ウイルス感染症、梅毒、淋菌感染症、クラミジア感染症、膣トリコモナス症の8疾患とした。

結果：HB_s抗体陽性が15例(14%)、HCV抗体陽性が1例(1%)、クラミジア抗原陽性が10例(9%)にそれぞれ認められた。TPHA試験陽性は4例(4%)であった。しかしながら、HIV-1抗体、HIV-2抗体およびHB_s抗原は検出されなかった。淋菌およびトリコモナスも確認されなかった。

考察：我が国の特殊浴場で働く者の性感染症に関するこれまでの報告は、今回の我々の調査結果よりも明らかに高値を呈している。一方、東南アジアから入国し風俗関連で働いている女性約350人の性感染症を1996年に調査した時は、HIV-1抗体陽性2%、TPHA試験陽性7%、クラミジア感染症15%、淋菌感染症2%、トリコモナス症はゼロという結果を得ている。今後、更なる疫学的研究の必要が求められる。